



私は、高校卒業後、姫路の大学に進学しました。18 年間共に過ごした両親・友人と離れ、一人暮らしが始まりました。両親が引越し先から帰ったその夜、ご飯を一人で食べたとき、帰りたいと切実に思ったことを覚えています。

慣れない一人暮らし、新しい環境で不安だらけの中、心の支えは家族からの電話でした。「ご飯は食べたか」「おはよう」の言葉一つひとつに愛情を感じました。また友人とたくさん話しました。時がたつにつれ連絡する回数は減りましたが、新しい場所で歩み始めたのだと感じました。進む方向は違っていても仲間との絆は一生消えません。困難の多い一年を乗り越えられたのは、支えてくれた先生方、友人、家族、両親のおかげです。ありがとうございました。

丹波市は、緑が多く、空気おいしい自然豊かなまちです。また、挨拶をすると、優しい笑顔で挨拶を返してくださる心温かい地域の方々。離れて始めて、こんなにも魅力があるのだと気付きました。私は丹波市が大好きです。温かく迎えてくれる場所があるから、私たちは精一杯目標に向かって走ることができます。なりたいもの、やりたいこと、人生の答えを求めてもがき、不安に押しつぶされそうなときは、ここにいる仲間や丹波市を思い出します。この地にはそんな力があります。育ててもらった丹波市に恩返しができるよう、精一杯生きていきます。

新成人は、社会に出ているものや学業に励んでいるもの、自分を探しているものなど歩み方は様々です。成人としての門出を迎えた今、大人としての自覚を持ち、責任ある成人として前向きに歩いていくことを誓います。

この素晴らしい丹波市に生まれた仲間と誓いを共にし、ふるさとを誇りとして心に刻みたいと思います。これからも温かく、ご指導、ご助言をいただきますようお願い申しあげ、「誓いの言葉」とさせていただきます。

*紙面の都合上、要約させていただきました。



①おそろいの青の着物が華やかな新成人②10 年前の自分と家族からの手紙③小道具を使って記念撮影④谷口市長から新成人に記念品を贈呈⑤2 部アトラクションのようす⑥市フェイスブックの宣伝に協力⑦撮影を盛り上げるフォトプロップス⑧地域ごとに分かれての記念撮影

平成 30 年丹波市成人式 新成人おめでとう

晴れの門出を迎えた新成人 783 人(式出席者 628 人)が、大人の仲間入りを果たしました。新たな決意と自覚を胸に、社会への第一歩を踏み出しました。

1 月 7 日(日)に、平成 30 年丹波市成人式が行われ、華やかな振袖やはかま、スーツに身を包んだ新成人が、丹波の森公苑で新たな門出を迎えました。新成人たちは、久しぶりに顔を合わせた友人たちとの会話や写真撮影を楽しみ、旧交を温めました。

受付で、小学 4 年生のときに将来の自分宛てに書いた手紙が手渡されました。「将来の夢」や「夢の実現状況」、「尋ねたいこと」「知らせたいこと」などが書かれており、中には写真や

家族からの手紙が同封されているものも。新成人は、10 年前の自分を思い起こし、にこやかに手紙を読んでいました。

谷口市長は式典で「みなさんは今後、市内・市外・海外で活躍されることと思います。市外に出ると、市のことを聞かれることが自然と増えます。その際には、ふるさとの思い出と魅力を存分に話してください。どこ

にいても自分が丹波市の広報官であると思って欲しいのです。これから出会う友人や大切な人たちへ、ふるさとに誇りをもって熱く語れる人になってください」と式辞を述べました。

温かな雰囲気の中で式が進み、新成人は終始笑顔で、それぞれが描く未来に向かって一歩を踏み出しました。



10 年前の自分へ 手紙の返事

新成人のみなさんが受け取った、自分宛ての手紙。手紙のテーマは将来の夢。10年前の自分に返事を書いてもらいました！

